

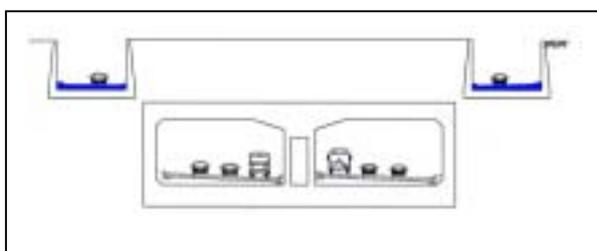
# 環境に与える影響

## 騒音の影響（ジャンクション・インターチェンジ周辺）

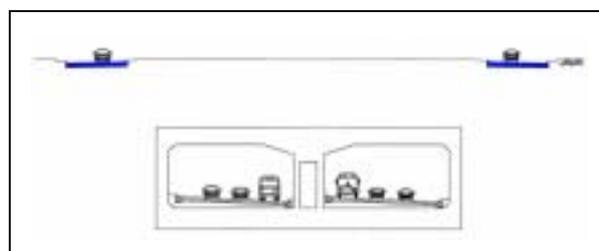
### 連絡路での影響

連絡路が必要となるジャンクションやインターチェンジが接続する道路付近では、騒音の影響が生じる可能性があります。

連絡路が半地下の箇所



連絡路が地表の箇所



連絡路が高架の箇所

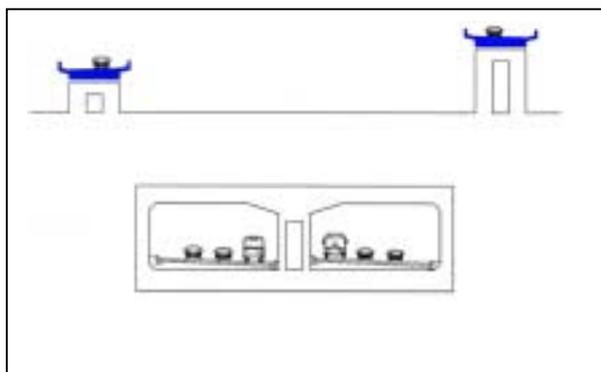


図 連絡路のイメージ

## 騒音対策の例

ジャンクション、インターチェンジ周辺地域への騒音を低減するよう、遮音壁、低騒音効果のある高性能舗装、連絡路出入口のトンネル内吸音処理などの対策で、沿道への影響を最小限にする必要があります。  
すでに完成している外環のインターチェンジ(例えば練馬区大泉)においても、騒音低減のための保全対策を実施しています。

### 騒音対策

- ・ 遮音壁
- ・ 低騒音効果のある高性能舗装
- ・ トンネル内の吸音処理等

●低騒音効果のある高性能舗装  
(空気に空気が逃げ、音が遠にくい)



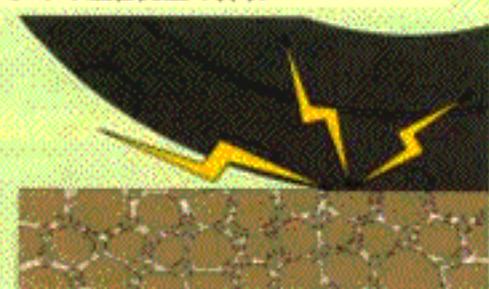
●新型遮音壁



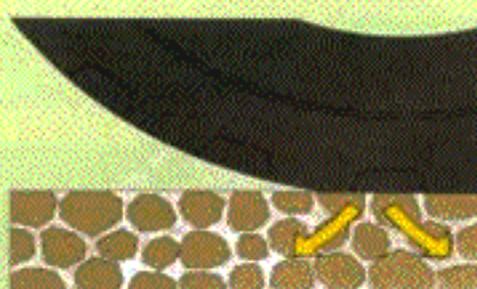
●吸音処理を実施したトンネル内部



### タイヤ騒音発生の抑制

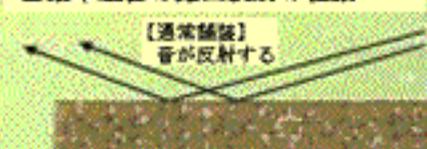


【通常舗装】  
タイヤ溝と舗装面の間に挟まれた空気の逃げ道がなく、空気圧縮音、膨張音が発生する



【道路交通騒音の発生を減少させる舗装】  
空隙に空気が逃げ、音が生じにくい

### 自動車騒音の路面反射の軽減



【通常舗装】  
音が反射する



【道路交通騒音の発生を減少させる舗装】  
音が一部吸収され反射が軽減できる

